



校長の目 ～西小日々通信～

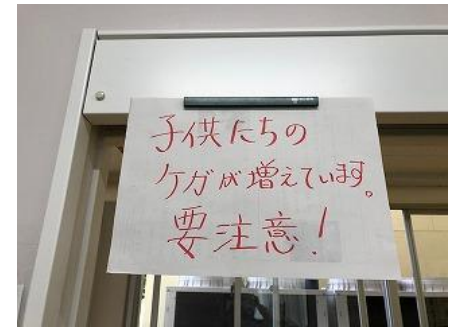
令和4年10月11日（火）



先週から急激に気温が下がって初冬の気配すら感じる日が増えてきました。登校してくる子供たちも寒そうにしています。中には、ポケットの中に手を入れて歩く子もいます。転んだりすると危険なので、「危ないからポケットから手を出そうね。」と声をかけると、子供たちは「あっ」と気づいて手をポケットから出します。今年は手袋の出番が早そうです。



最近、校内でケガをする子が増えています。その中でも、歯・あご・目など、首から上のケガが目立ちます。いずれも自分の不注意で転んだりぶついたりしてケガになっています。そのことで、ご家庭に連絡を取らせていただき、お迎えをお願いする場面が多々あります。痛い思いをするのは、誰でも嫌です。落ち着いて注意深く生活するよう、ご家庭でもお話していただければ幸いです。



1年生は、国語でカタカナの学習をしています。ひらがな、漢字、カタカナ、文字については覚えることがたくさんです。先生と一緒に書き方を確認してから、ドリルに書き込んでいきます。どの子も1学期に比べて、筆圧が強くなり、形も整ってきました。一字一字ていねいに書くことが基礎基本なので、きちんと書いて、しっかり覚えてほしいと思います。



なんで日本語はひらがな・カタカナ・漢字があるの？と思う子は多いと思います。漢字は、2400年前ころから中国大陸より伝えられ、日本語に当てはめて使っていました。しかし、漢字だけだと和語と意味がぴったりくるものが無い場合があったので、漢字の音だけ借りて表記しました。それが万葉仮名です。いわゆる当て字です。一方、ひらがなやカタカナは、漢字（万葉仮名）を省略したり、一部だけ抜き出したりして誕生しました。どちらも9世紀ごろに発生したようです。ひらがなは、主に貴族が使用し、和歌や物語や随筆に用いられました。カタカナは主に僧侶が使用したようです。お経の読み方を行間にメモ書きする際に、漢字（万葉仮名）の一部を抜き出して使っていたそうです。これがカタカナの始まりと言われています。

5年生の教室に入ると、グループごとにタブレットの画面を見ていました。理科の「流れる水のはたらき」の学習で、屋外で実験をした様子を動画で撮影したようで、そのときの様子をもう一度確認しているのです。手作り感満載といえば聞こえがいいのですが、撮影した画面がぐらぐら動くので、私は酔ってしまいそうになりました。子供たちにとっては、自分たちの実験をもう一度振り返ることができて便利です。何より楽しそうです。流れる水の働きには、「けずる働き（浸食）」「運ぶ働き（運搬）」「積もらせる働き（堆積）」という三つの働きがあることを実験を通して学びます。

